

一九七〇

美術年報



徳島県美術家協会

は じ め に

県民の多くの方々から親しまれている県美術展(県展)も25回を迎えました。県展をはじめた戦後の頃は、出品数、鑑賞者数において、現在とは比べものにはなりません、その先人の業績をふまえて、毎年美術の秋を飾るにふさわしい行事として、多くの関係者のご支援によって開催されてきたことはよろこびに堪えません。

この県展が発展拡充されるにつれて、一番困ってきたことは、会場ではありますが、二期制をとったり、二会場にしたり、いろいろ苦心してきましたが、いよいよ昭和46年8月には、郷土文化会館が建設されますので、一大飛躍をとげると確信いたしております。

また、県芸術祭も第4回を迎えますが、本年度から県展が県芸術祭の主催公演として開催されますことは、県をあげての芸術文化振興がいよいよ軌道になるものと確信いたします。

こうしたことから、25回を経た県展が、さらに県民の中からもり上った県民のための美術展であるために、いろんな意味で契機となると考えられる26回県展の構想をみなさんと共に打ちたてたいと思います。

昨年から開催された四国地区芸術文化振興会議が、9月に高知市でもたれ、四国各県の代表者が参加し、各県の実情や振興策が話し合われましたので、これからの交流ということで糸口が見い出されるのではないかと考えています。

県内でも、あるときは一日に五会場で展覧会が開催されるなど、グループ展個展が盛かんになってきたことはよろこばしいことでありますし、さらに切磋琢磨してまいりたいと思います。

今後とも協会の発展のために、会員のご支援、ご高配をお願い申し上げます。

昭和45年11月

県美術家協会会長 桜 木 秀 男

徳島県美術家協会規約 (42・4・23改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島県立図書館内におく。
- 第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし、県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。
- 第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。
①日本画 ②洋画 ③彫塑
④美術工芸 ⑤書道 ⑥写真
- 第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行なう。
(イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会
(ニ) 観光美術の振興
(ホ) その他必要な事業

第2章 役員および会議

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会 長
副会長 (2名)
理 事 (若干名)
監 事 (2名)
会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から4名以内推せんする。
役員任期は2年として留任をさまたげない。
- 第6条 本会に顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。
- 第7条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計事務の報告、役員選出規約の改廃、その他重要事項の審議

を行なう。

総会は出席会員の過半数をもって議決する。

- 第8条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

- 第9条 各部に次の役員をおく。
部会長
委員 (部会員数の3割以内)
部監事 (2名)
役員は総会で選出する。役員任期は2年とし留任をさまたげない。
- 第10条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計事務の報告、役員選出その他重要事項の審議を行なう。
- 第11条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。
- 第12条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行なうときは、理事会の承認を必要とする。
- 第13条 各部の経費は部会1人当たり250円とし、その他事業収益、寄附金をもってあてる。

第4章 経 費

- 第14条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄附金その他をもってあてる。
- 第15条 会費は年額500円とし、2部以上にまたがる場合は1部につき250円を追加納入する。
- 第16条 会計年度は毎月4月1日から翌年3月31日までとする。

役 員 名 簿 (昭和44・45年度)

敬 称 略

						徳島市
顧問	原竹		菊太	郎		徳島市
"	福	田	俊	一	県立図書館長	徳島市
"	田	島	重	夫	徳新文化部長	徳島市
"	蒲	中	良	平		徳島市
"	赤	池	正	夫		熊本市
名誉会員	日伊	枝	東	峰	日本画	徳島市
"	伊	下	八	晃	洋画	東京都
"	清	原	伊	郎	洋画	東京都
"	石	原	三	知	洋画	東京郡
"	太	川	以	郎	彫	海部郡
"	小	田	五	郎	書	大阪市
"	木	坂	三	石	道	西宮市
"		村	奇	知		
			知			
副会長	桜富	木	秀	男	(洋画)	徳島市
理事	福後	永	眉	峰	(書道)	徳島市
"	近	島	正	仁	(写真)	徳島市
"	荻	藤	春	潮	(日本画)	徳島市
"	稻	野	高	能	(")	阿南市
"	河	木	行	夫	(")	徳島市
"	佐	野	鳴	雪	(")	鳴門市
"	平	野	太	郎	(洋画)	徳島市
"	永	沢	比	志	(")	徳島市
"	佐	山	い	む	(")	徳島市
"	河	藤	隆	二	(")	徳島市
"	浜	崎	良	隆	(彫塑)	徳島市
"	大	口	文	行	(")	徳島市
"	釜	津	誠	恵	(")	徳島市
"	新	床	幹	昭	(工芸)	阿南市
"	堀	居	幹	一	(")	徳島市
"	高	井	泰	猛	(")	徳島市
"	後	橋	天	之	(")	徳島市
"	荒	藤	秀	勇	(書道)	徳島市
"	田	井	鶴	秀	(")	徳島市
"	西	中	天	鶴	(")	徳島市
"	武	条	双	翠	(")	徳島市
"	酒	内	栢	二	(写真)	鳴門市
"	井	上	征	亨	(")	徳島市
"	矢	野	博	司	(")	徳島市
"	小	井	秋	光	(")	徳島市
監事			寺	溪	(日本画)	鳴門市
事務局長			信	談	(彫塑)	徳島市
				政		小松島

美術家協会44年度の記録

44. 4.19 写真部役員会（春秋苑）13名、44年度事業計画
" 4.29 総会並びに各部会（図書館）52名、43年度会計報告 44年度事業計画など
" 5.13～18 第10回博美展（第1期）日本画、書道、美術工芸<博物館と共催>
" 5.20～25 " （第2期）洋画、彫塑、写真<博物館と共催>
" 6.18 県展主催者会（徳新）8名、第24回県展について
" 6.21 写真部委員会（春秋苑）17名、県展について
" 6.22 写真部理事会 7名、県展について
" 6.23 理事会（春秋苑）24名、第24回県展について、その他
" 7. 2 洋画部委員会（春秋苑）14名、県展について
" 7. 3 工芸部理事会（図書館）5名、県展について
" 7.20 書道部委員会（吉野旅館）16名、県展について
" 7.30 美術講習会（工芸）30名、（図書館、集会室）七宝焼について
" 8.10 美術講習会（写真）（文化センター）40名 写真作法について
" 8.20 県展主催者打合せ会（徳新）12名、第24回県展について
" 8.25 日本画部会（鳴門ビル）12名、県展について
" 9.13 洋画部委員会（春秋苑）14名、県展について
" 9.22 理事会（船場ホテル）23名、第24回県展について
" 10.10 洋画部委員会（春秋苑）12名、県展と写生会について
" 10.15 写真部委員会（春秋苑）12名、県展について、その他
" 10.18 県展書道搬入（図書館）261名
" 10.19 " " 審査（ " ）7名
" 10.26 県展写真搬入審査（図書館）255名
" 10.27～28 " 日本画搬入（図書館）62名
" 10.31 " 洋画搬入（図書館）320名
" 11. 1 " " "
" 11. 2 " 洋画審査（図書館）50名
" 11. 2 " 工芸・彫塑搬入（図書館）65名
" 11. 3 " " " 審査（図書館）36名
" 11. 5 " 日本画審査（図書館）35名
" 11.15～23 第24回県展（市体育館、千秋閣）30,000名
" 11.24 日本画部会（図書館）10名、県展反省
" 12. 1 工芸部会（図書館）8名、県展反省
45. 1.28 洋画部委員会（春秋苑）第11回博美展について
" 3.25 美術工芸部会（図書館）6名、坂部、柏木二人展について

各部役員名簿

日 本 画

部会長	後藤	藤	愈	(春 湖)	徳島市
委員	萩野	野	行	(青 佳)	"
"	田淵	淵	靖	(冬 湖)	鳴門市
"	稲木	木	義	(鳴 雪)	"
"	近藤	藤	高		阿南市
"	森		義	(篤 苑)	"
"	矢野	野	昇	(秋 溪)	鳴門市
"	篠原	原	正	(三 叢)	那賀郡
"	橋本	本	正		阿南市
"	高田	田	美	(瑞 雪)	鳴門市
監事	村上	上	重	(凌 雪)	鳴門市
"	長尾	尾	弘		徳島市
顧問	庄野	野	為三郎	(青 卦)	徳島市
"	浜		半蔵	(晶 雲)	海部郡

洋 画

部会長	河野	野	太	郎	徳島市
委員	富村	村		裕	"
"	平沢	沢	い	さむ	"
"	桜木	木	秀	男	"
"	佐野	野	比	呂志	"
"	天野	野		節	"
"	永山	山	隆	二	"
"	武市	市	善	次郎	"
"	今田	田	史	男	"
"	後藤	藤	仁	一	"
"	黒田	田	優	子	"
"	三木	木	多	美子	"
"	湯本	本	禎	三	鳴門市
"	秦		文	雄	徳島市
"	川端	端	正	雄	鳴門市
"	高砂	砂	幸	哲	"
監事	青山	山	盛	雄	鳴門市
"	村	上		励	徳島市

顧問	石川真五郎	板野郡
部長	佐藤隆行	徳島市
委員	河崎良陽	"
"	吉田一	"
"	霜田精	阿南市
"	浜田口	徳島市
監事	大津文	阿南市
"	鎌田邦	徳島市
"	小野寺	小松島
顧問	坂東文夫	徳島市

美術工芸

部長	釜床誠一	名西郡
委員	高橋居	徳島市
"	新堀井	"
"	岡田幹源	"
"	森野	小松島
"	森野	鳴門市
"	坂部	徳島市
顧問	柏木翠	徳島市
"	大沢白雲	"
参与	大沢与美	海部郡

書道

部長	後藤	鹿三	(泰秀)	徳島市
委員	荒井	真十	(天鶴)	"
"	富永	三喜	(眉峰)	"
"	田中	正一	(栢翠)	"
"	田中	繁夫	(双鶴)	"
"	仲	三千人		"
"	大溝	文夫	(三木田栖鶴)	板野郡
"	讚岐	敏春	(峰流)	徳島市
"	渡辺	政信	(草石)	"
"	長原	功	(阜鶴)	小松島
"	後藤	新	(香石)	麻植郡

板野郡	陽峰	雄明	孝春	藤岡村	春西田	監事 部員 顧問
德島市	(楚峰)	実明	正峰	原川塚	西田高前	
"	(昇泉)	俊栄	麻茂	尾松	大成大	
阿南市	(清舟)	雄昭	和義	井江	宮長	
德島市	(古丘)	衛晴	信幽	本崎	松菱	
"	(荘秀)	孝義	修日	保水	久清	
"	(碩城)	香猛	三出	口枝	川赤	
"	(雨幽)	郎雄				
"	(石濤)					
板野郡	(月)					
德島市	(桂卿)					
"	(東峰)					

写真

鳴門市	二元司	征博	西籬	条原	鳴門市
德島市	雄衛	敏良	酒笹	井田	"
"	男梵	清英	笹床	波山	阿南市
阿南市	次之	泰俊	中藤	井田	德島市
"	邦夫	定繁	增木	田村	"
麻植郡	亨光	英	島林	内上	鳴門市
德島市	典男	正章	武井	川原	阿南市
"	介理	為	中三	藤川	"
鳴門市	一能	正	近浅	成田	鳴門市
德島市	明博		浅吉	井本	那賀郡
"	仁		深湯	島	德島市
"			福		"
鳴門市					鳴門市
德島市					德島市

24回展の記録

日本画

44.11.15~23 会場 千秋閣(展示総数 53点)

- 〔審査員〕 山崎 忠明
 〔招待〕 荻野 行夫、長尾 弘子、村上 凌雪、近藤 高能、橋本 正弘
 〔特別出品〕 浜 晶雲、庄野 青舩
 〔特選〕 坂本 武子、土方喜美子、森本 貞夫、中川 健
 〔準特選〕 岩花 春代、中西イソ、真鍋 学、藤川 久子
 〔入選〕 原田 寛子、井内カヨ子、田渕 靖夫、木谷 コト、美馬 清子
 松崎 安野、吉崎 進、片岡 良治、国行 房子、斉藤 誉
 福本 和行、篠原 正義、佐々木健治、岡田 敬子、長谷川武志
 春名 生子、石黒 妙子、児島三千人、矢野 秋溪、井上 栄
 天羽 密二、長谷 寿、森 蔦苑、今川 勝重、稲木 鳴雪
 三原 桂風、高田 美苗、釣島 義雄、天羽 成芳、内藤 和江
 鹿兎鳥篤子、湯本 和代、清水 丞典、小笠 謹司、富増 治
 田村 雅世、清水 敬由

洋画

44.11.15~23 会場 市体育館(展示総数 124点)

- 〔審査員〕 大沢 昌助
 〔招待〕 佐野比呂志、平沢いさむ、永山 隆二
 〔無鑑査〕 楠瀬 等、川原 康孝
 〔特別出品〕 桜木 秀男、河野 太郎
 〔特選〕 板東 弘憲、高橋 敬、清水 丞典、今田 敏彦、佐伯 幸子
 〔準特選〕 油津 一男、広岡 育子、中川 昭、下内 章次、吉本 宣子
 森 依頭、騎馬 政美、堀井 源三、三沢 尚子、清水 萬世
 〔入選〕 板東 弘憲、桑原 義広、福野 稔、佐野 邦子、鶴飼 重輝
 岡久 薫、広岡 育子、下内 章次、斉藤 敏一、越久 高照
 菅井 務、高橋 勇、亀岡美乃留、岡本 征二、宮 みのる
 小倉 弘、橋本 和子、筒井 友芳、妹尾 映子、湯浅 安夫

菅 恒夫、長瀬 雅俊、吉崎 福恵、天野 節、高砂 幸哲
 服部 恵美、川原万立子、西村 泰子、島村 英之、井上 栄
 大石 宇一、米原 克美、鈴江 豊子、加島 保行、浜中 健司
 イマダフミオ、青山盛雄、村上 励、小橋 種雄、山県 宏道
 戸田 浅夫、高橋 敬、平尾美知子、下時治郎秀臣、工藤朝右
 坂本三千一、清水 丞典、久保 昌弘、一森 正博、日下 仁夫
 森 依頭、工藤 潤二、武市善次郎、斉藤 誉、富本彦太郎
 川真田博子、霜田 精奏、酒卷 太司、天野 幸、松田 道代
 前田 進一、池田 順子、宮崎 善江、渡辺 記世、露口 玲子
 湯本 禎三、乾 繁春、阿部 正史、小笠美千代、立岩 巖
 吉川 修平、橋本 和博、伊沢 啓子、上田 久利、森本 秀磨
 折野 安弘、原田 正勝、松田 賢二、松原 清、前野 英夫
 松川 寛、海原 敏文、鎌田 邦宏、光本 仁史、三浦てる子
 松永 勉、浜野 恭治、松尾 彰滋、石井 一昭、朝日 君代
 清水 敬由、清水 麗光、佐伯 幸子、川端 正雄、清水 芳典
 林 佳陽、田上エツコ、北島 溢美、柏木 雅雄、笠井 幾代
 細井 真澄

彫 塑

44.11.15~23 会 場 千秋閣 (展示総数 33点)

〔審査員〕 菊池 一雄
 〔招待〕 河崎 良行、佐藤 隆、大津 文昭
 〔無鑑査〕 浜口 恵、井下 俊作
 〔特 選〕 細川 直毅、公地ミチコ、鎌田 邦宏
 〔準特選〕 霜田 精奏、榊原八重美、長篠 公子、田村夫美子
 〔入 選〕 川真田博子、司 征和、藤田 浩二、宮本 幸江、榊原八重美
 鎌田 富則、小野寺 譲、坂東 由紀、松永 勉、谷村 薫子
 松浦 義博、田村夫美子、渡辺 記世、鎌田 邦宏、門田 守雄

美術工芸

44.11.15~23 会 場 市体育館 (展示総数 28点)

- 〔審査員〕 山脇 洋二
 〔招待〕 釜床 誠一、新居 猛、堀井 幹之
 〔無鑑査〕 高橋 勇
 〔特別出品〕 大沢 与美
 〔特選〕 和田 一男、松下 慶一、森 昌男
 〔準特選〕 森 浩、東雲 久武、松下 雄介
 〔入選〕 長篠 公子、大西 光、田村 功、加納 正則、稲田 春雄
 森 浩、高木 朱美、岡田 源吉、藤本 真三、東雲 久武
 和田 一男、松下 雄介、村上 正典

書 道

44.11.15~23 会 場 市体育館 (展示総数 216点)

- 〔審査員〕 荒井 天鶴、後藤 泰秀、田中 双鶴、田中 栢翠、富永 眉峰
 〔招待〕 西岡 楚峰、久保 幽香、仲 三千人、新居 藍州、高原 清泉
 〔無鑑査〕 西 南龍、讃岐 峰流、成尾 莊秀、渡辺 草石、長江 清幽
 〔特別出品〕 赤枝 東峰

……〔漢字の部〕……

- 〔特選〕 武市 鳴雲、川上 虹泉
 〔準特選〕 片山 双梧、大塚 青丘
 〔入選〕 松永 遊仁、岡久 海南、田岡 倚山、小西 竹風、松本 祐石
 前川 湖水、吉田 秀鶴、丸浦 生鷺、服部 文昭、宝田 卓齊
 上田 溪水、中村 雅堂、河端 聰雨、川城 峯碩、須川 映峰
 洲崎 忠峰、河原 紫峰、大柴 竹南、播磨 南枝、原田 玉泉
 海原 三鶴、久米 智子、島田 小園、大下 江波、松本 深翠
 松本 清香、片山 恵園、椎野 春翠、椎野 孝子、中西 鬼山
 橋本 孝雲、佐藤真知子、久積 晃陽、近藤 晴雲、三間 好鷺
 春藤 閑陽、新居 藍水、久米 青鶴、安村 尚山、石原紀久江
 斉藤 南翠、横田 素林、松本 花溪、和泉 旭峯、東甫 白亭
 横関 柏翠、田村 昇鶴、吉田 竹舟、平田 南仙、清水 桂月
 泉 喜策

……〔仮名の部〕……

- 〔特選〕 美好幾美賀、長谷 美峯

〔準特選〕

〔入選〕

森 翠峰、勝瀬 景流、森 礼子
枝川 照子、安松 初枝、臣永 幸子、松原よし子、高島千代子
金野智賀子、杉本千枝子、中筋 良江、中筋 滋子、佐々木翠峰
福良千恵子、丸浦 生鸞、西岡 光子、木下 里子、金子 紫涛
中山 叔子、若山 恭子、磐崎 永醒、木村佐代子、坂東 知草
岩城美沙子、坂東 容子、八木 幸子、松岡由紀子、近藤 静苑
武市 瑛子、松田 友栄、瀬川 順子、田中 翠香、永田 佳子
山本三生子、中西 扶美、金村 節子、小川 憐子、相原 朴草
伊東 重子、田中 久恵、瀬藤 豊子、海野 景泉、井中 容子
坂口貴美子、大石加代子、中口 操、山川 秀芳、近藤 恭子
出口 佳堂、溝田 砂風、西野 とし、辻 恭子、加藤美津子
角谷 文子、小野木美智子、山口喜久、八木 祥子、矢野カヨ子
藤若 美風、日野 正子、山中 順子、坂本利加子、富久 和代
足達 京子、中谷 史子、日野 弘子、高瀬 香峯、大塚 美溪
黒崎 康子、飯島 如水、宮崎 美和、中瀬 久栄、岡島 順子
池上 和子、田中 芳子、秋山喜久子、山本 鳴水、齊藤 芳邨
元木悠記子、中尾 勝子、福井 民代、安東 秀流、土居 澄江
坂根 幸子、奥田 文子、浜田 啓子

……〔近代詩文〕……

〔特選〕

〔準特選〕

〔入選〕

芝原 醒鶴、安原 香象
三木田栖鶴、粟田 白蓉
大島 溪石、岸 潮風、小田 創風、永松 春苑、喜多村成蹊
中山 青葉、河野 富仙、青柳 皐陽、野村 鳴洋、久米 聰香
佐野 天靖、佐藤 正江、森野 靖仙、佐藤 茂美、後藤田桂翠
藤倉 睦男、作本 鈴子、稲井 美穂、成尾 信子、檜原 香柏
戸摩 純子、寺田 幽仙、久岡 春代、春川 青超、須崎喜代美
市原 茂利、森岡 禎幽、藤田 永仙、長尾公美子、長尾紀代美
森 のぶ子、米沢 新二、齊藤 実、播磨 幸一、船越千賀代
本庄 冬子、秦野佳代子、高山 宏子、森 郁子、河野フミ子
青木美代子、西原三登利

……〔前衛〕……

〔特選〕

〔準特選〕

〔入選〕

原田 霄月
西谷 澄水
竹内 才石、溝口 素水、原田 霄月、渡辺 翠邑、石田 仙岳

石田 青玉、日下 溪翠、前川 古舟

写 真

44.11.15~23 会 場 市体育館 (展示総数 123点)

〔審査員〕 棚橋 紫水
〔招待〕 福島 正仁
〔無鑑査〕 西条 征二、増田 清次
〔特別出品〕 吉成 正一、浅田 章能、湯本 博、吉成 一光

……白黒の部 (単) ……

〔特 選〕 酒井 博司、中川憲四郎、高野 弘治、川上たかと
〔準特選〕 水間 利生、勝西 雅夫、枇杷谷直一、服部 信彦
〔入 選〕 井上 光雄、安長 剛、渡辺 実、原田 敏雄、島村 泰邦
宮田 克彦、宮西 実、金山 利勝、本庄 金夫、古井 謙吉
新居見萬幸、柿原 有一、中川憲四郎、仁木 富雄、関口 務
中川 定典、山本 政雄、高野 弘治、山田 勝二、川上たかと
勝西 雅夫、松田 功、近藤 康之、藤井 梵、小西 紀生
西野 弘明、岡本 弘、枇杷谷直一、多留見敏夫、久米 正雄
山県 尚郎、石橋 貴史、田中 敏彦、松本 公、望月 常夫
松浦 孝、杉 達也、中山 良男、櫛淵 魏

……白黒の部 (組) ……

〔特 選〕 山瀬 稔、藤井 梵、三村 和生
〔準特選〕 勝西 雅夫、蔭原 弘一
〔入 選〕 武内 享、篠原 元、堀本 芳明、横山 雅俊、近藤正多嘉
城尾 静子、宮西 実、関口 務、平岡 康治、小林 実
藤井 梵、鈴木 秀次、小西 紀生、岡本 弘、枇杷谷直一
岸 寛一、中山 良男、杉 達也、笹田 敏雄、堀本 信之
松島 啓二、松島 義治

……カラーの部 (単) ……

〔特 選〕 武内 享
〔準特選〕 岩角 芳晴
〔入 選〕 山田 和幸、後藤 田弘、浜野健一郎、中川 定典、松田 功
岡本 弘、久米 正雄、多田 徳光、松浦 孝、浅川 理

山田 和幸、木田 英之 本日

……カラーの部（組）……

〔準特選〕	床波 衛
〔入選〕	武内 亨、納 紫津子、勝西 雅夫、岡本 羊五、岡本 弘

差 昇 部 組

（以下は非常に薄い文字で印刷された、ほとんど読めないような文字列が繰り返されている。これはおそらく原稿の複製ミスや印刷の粗さによるものである。）

日 本 画 部

部 会 長 後 藤 春 潮

年 間 展 望

本年度に於ける日本画の第一に挙げるものは、11月の県展であろうか、日展受賞者の山崎忠明先生を、京都より審査員としてお迎えした。先生は去る七月の関西美術展でも審査員として活躍されている。県展日本画部門の出品点数は、年々作品の号数と共に増大し、その入落は期せずして厳選の形となってきた。然し出来る限り一点でも多く取って貰うべく、務めに務めて5割6分の入選率に引上げてきている。思うに2、3年前に比べて思いもよらぬ競争率に成長したものである。

今年度の審査を考えて見るに、大作での努力とか、表現上の美しい技術性よりも、技巧は少々下手でも底があり、個性的で模倣性の少ないものが重視された様に考えられる。先生は次の様なことを洩された。「徳島に來たのは始めてだが大作が予想外に多いのには感心する、それはよいことだが、何回か見て廻っているうちに、表現上の努力が(形式)に捕われた絵が多い様な気がした。惜しいと思う点は、基礎のデッサン(写生)の不足や弱さが目につき、努力はしているのだが、内容の追求に欠けていて残念だと思う」とのことであった。

第二としての博美展では、出品点数としてはとても少なかったが、内容のある個性の強い作品が集まったのは、県展作品とは対照的に思われた。けれどもこの方が近代日本画の思潮に合っていてよいと思った。其他日本画部主催の小品展、八月における新作日本画展(何れも丸新画廊)は百花妍を競うの盛況振で新人の進出も又目ざましく、日本画の今後が大いに期待出来るそうである。なお数多くの県外、県内のグループ展に於ける部員の活躍も盛んであり、日本の経済成長と相俟って、日本画への研究熱も併行して行くのか如き今日の現状は、部の皆さんと共に、大いに喜びたいと思う。

【消 息】

44年10月上旬 村上凌雪氏(日本南画院)に正会員として推挙される。

11月上旬 橋本正弘氏(日展)改組第一回展に入選。

11月中旬 第23回(県展)公園内千秋閣にて開催。入選受賞者等は別紙一覧表に記載の通り。

12月下旬 後藤春潮(北九州写生旅行)一週間後帰省。

12月下旬 鳴潮会日本画展(鳴門市)部会員新人と共に展覧。

45年3月上旬 日本南画院(第10回展)に村上、稲木、高田、森、長谷の諸氏入選。

4月上旬 白雪社展(博物館)の折、森薦苑氏招待出品。

- 4月中旬 稲木鳴雪、新興美術院正会員に推挙される。
- 4月中旬 四国水墨画会、阿波池田保養センターにて設立総会開催。浜、村上、稲木の三氏理事におされる。
- 5月中旬 春潮塾展（第4回）丸新ホールにて開催、72点展示。
- 5月中旬 阿南市美術展（市信用金庫ギャラリー）にて開催、近藤、篠原、橋本、森、長谷氏等出品。
- 5月下旬 故宮井小雨先生の遺作展（観光会館）。
- 6月中旬 日本画部小品展（丸新画廊）60点出品。
- 6月中旬 第一回楽々会作品展（丸新画廊）楽焼グループと村上教室日本画と共催。
- 8月上旬 美協日本画部講習会（文化センター会議室）講師、京都、奥村厚一先生、参会者50名。
- 8月中旬 新作日本画展（丸新画廊）。
- 9月上旬 サロンド徳島東京展（銀座画廊）に長尾弘子氏参加。
- 9月下旬 青紅会日本画展（丸新画廊）にて、村上教室、稲木教室の合同展を開く、68名約100点出品。
- 9月下旬 アワアート集団展（名店街画廊）日本画に中川健氏出品。
- 9月下旬 女流美術展（こぼんや画廊）芸術祭参加、日本画部に、長尾、土井、高岡、森、高山、新居の諸氏参加発表。
- 10月上旬 サロンドトクシマ徳島展（こぼんや画廊）芸術祭参加に長尾弘子氏出品。
- 10月上旬 有秋会展（大阪）に森薫苑氏出品。

洋 画 部

部 会 長 河 野 太 郎

年 間 展 望

第24回県展には大沢昌助氏をお迎えして審査をお願いした。洋画部は例年出品が多く他部に比較して厳選になるので、この回は多少入選率を多くする予定で審査にもそのようにお願いしたのであるが、現実には作品にあたってみると、レベルの低いものがあり、また審査員の眼も稍きびしいものがあって例年通りの厳選となってしまった。その理由の一つとしては入選した作品に大作が多くなったこと、具象的な作品が多くなったがそれには基礎的な力が不足のものが目立ったことによると思う。最近写実的な傾向が強くなったことは徳島だけでなく全国的な風潮であるが、それには基礎となる写実力の欠陥がマザマザと出てくるので、折角の努力作でありながら落選の憂き目を見るが多かった。また大きさについても100号、200号の大作に

苦闘して気の抜けた作品よりも、20号、30号でよいから充実した作品であってほしいと思った。

行事としては初めてのことであるが洋画部主催で写生会を行うことを決定、11月16日、バス貸切で淡路島に行った。応募参加者と委員合わせて40名、初心者が多く、委員が指導に当たった。曇天で風も強く絶好ではなかったがそれぞれ1、2点の作品ができ、有意義なまた楽しい写生旅行であった。45年春にも方面をかえて写生会を計画、委員が和歌山の深日に下見に行ったが、多人数の写生地としては適当でないので中止した。次の機会に第2回目の写生会を予定している。

第11回博美展は4月28日から5月10日まで開かれたが洋画は例年通り厳選となった。板東弘憲氏が前年に引き続いて博美賞を授賞したことが注目された。

グループ展としては44年県芸術祭参加公演として第26回女流美術展が11月26日より30日まで産業観光会館で開かれたが、引き続いて45年度参加公演として45年9月25日より27日までこぼんや画廊で開かれ会員の努力作が展覧された。芸術愛好会の藤原文雄氏が計画されてサロン・ド・トクシマ展が44年度県邦術祭参加公演として10月10日より12日までこぼんや画廊で開かれ小品ながら洗練された作品が展示されたが、本年は初めて東京に進出して、銀座中央美術画廊で9月15日より20日まで開かれた。引き続き10月10日より12日までこぼんや画廊で徳島展を45年県芸術祭参加公演として開かれた。本年初めの展覧会としては第2回津田愛着展が1月8日より11日まで産業観光会館で開かれた。変貌する津田の風物を描き残す意味において意義ある展覧であった。第3回モダンアート徳島支部展が2月24日より27日まで産業観光会館で開かれ洗練された中堅作家の大作が展示された。世代美術の第25回記念展が4月24日より29日まで丸新ホールで開かれあわせて会員による徳島百景色紙が展示された。第23回青美展が9月4日より9日まで丸新ホールで、45年県芸術祭参加公演として開催された。今回は公募を初めての試みとしてあわせて行ったが、公募作品は予想以上に多数で水準も高く盛大なものとなった。新進気鋭の新紀会展が9月20日より23日まで産業観光会館でアワアート集団展の第1回が9月26日より28日まで名店街ホールで開催された。また鳴門市の作家の集まりである鳴彩会が第8回展を10月9日から14日まで丸新ホールで、石井美術の会第2回展が10月16日より18日まで産業観光会館で開かれ、それぞれ堅実な発展のあゆみを見せた。そのほか徳大美術部、徳大教育学部美術教室を初め、中央の美大グループの各展、高校のグループ展も主として夏期から初秋にかけて多く開かれ、将来の待望されるものが多かった。紙面の関係で全部紹介することができないのを遺憾とするが、年と共に洋画層の厚くなることを感じた。

【消 息】

- 板 東 弘 憲 7月3日—5日個展、44年に続いて45年博美賞
- 藤 本 富 夫 2月6月—11日滞欧作品展
- 寺 沢 猪三郎 椎間板ヘルニアで長い闘病生活にもかかわらず、画と文集「先生泣かせ」を出版
- 河 野 太 郎 藩の絵師守住貫魚のさしえ研究を基礎として「初太郎漂流記」を出版

彫 塑 部

部 会 長 佐 藤 隆

年 間 展 望

第24回展は、新しい出品者がふえてきたことがまず特筆すべきことだと思う。点数は前回とあまり変わりなく、ただ入選率のつごうで近年になく厳選になり、新人の多くの台頭が結果的には見られず残念だった。今回の審査員、菊地一雄氏（新制作協会々員、東京芸大教授）の話では、水準までは達しているがもう一步の力不足の結果で入選にならなかった人も多くいたとのこと、具象作品に充実した作品が多かった反面、抽象作品が少なく、単に思いつきで制作し抽象だからいいというような安易感をもってはこまるとの注告をうけた。その他県内活動では第7回野外展を新町川公園で催し、光、色、動きなどをテーマに新しい傾向の作品が街行く人の目をとめた。中央では二紀会展で河崎良行氏が連続受賞したことは大変喜ばしいかぎりだ。

【消 息】

井 下 俊 作	二紀会入選
河 崎 良 行	二紀会受賞 同百人展出品
佐 藤 隆	二紀会出品
浜 口 恵	モダンアート展入選 同代表作家展出品
森 顕 信	豊中市へ転勤

美 術 工 芸 部

部 会 長 釜 床 誠 一

年 間 展 望

第24回展は東京芸術大学教授、山脇洋二氏を迎えた。出品数は例年と変化はないが、内容的には陶器の作品が圧倒的に多く、若い人たちの進出がめざましく、またすぐれた作品が多くなったことは、大変喜ばしい傾向である。半面、過去に大変盛んであった金工染色などの出品が少なかったことは残念である。

個人的には、和田一男氏の特選「窯変釉花器」は形といい色といいすぐれた作品。松下慶一氏の特選「樹」も陶芸作品だが、大胆な造形と模様が成功、新しい大谷焼の進路を示している

ように思われる作品で、若い世代にはこうした大胆さ、冒険が望まれると審査員が評された。森昌男氏の特選「昆虫」は金工で板金をうまく使って、金属の素材としての持ち味を生かした力作であった。

全体的な反省として、「若い世代は破たんをおそれず、もっともっと冒険をしてもらいたい。またあらゆる素材のものを出品して、バラエティーに富んだ美術工芸部門にしてもらいたい…。」と指摘された。

今後の研究課題として、会員は肝に命じ互いに工芸部門の発展のため一その努力と協力を期待したい。

美術工芸部で本年度特筆すべき点は、5月8日から3日間徳島市産業観光会館で、坂部、柏木美術工芸二人展を開催したことである。

特にお二人の戦後結成した美術工芸部の発展に努められたご功績、先輩をたたえる趣旨のもとに、事務局の清水氏、筆田氏の献身的なご協力、ご指導と、工芸部有志の物心両面のご協力奉仕により実現できたことは、心暖まるできごとであった。

坂部氏、柏木氏のお人柄をしのばせる数々の代表作品は、入場者に感銘を与えた。

【消 息】

- 45. 4 森昌男氏三軌会に入賞
- 45. 5 徳島市産業会館で坂部、柏木美術工芸二人展開催
- 45. 8 矢野款一氏 徳島市丸新百貨店において矢野款一作陶展開催
- 45. 9 村上正典氏 産業会館において、村上正典作陶展開催
- 45. 9 新居猛氏 グッドデザイン入選
- 45. 10 矢野款一氏 香川県文化会館において、矢野款一作陶展開催
- 45. 10 森浩氏徳島市丸新百貨店において、森浩作陶展開催
- 45. 10 矢野款一氏、松下雄介氏、森浩氏、新匠会展に入選

書 道 部

部 会 長 後 藤 泰 秀

県書壇の概況

昭和44年から45年にかけて、県書壇のグループ活動はいよいよ活況を呈し、内容的にも一段と充実を見せてきた。

まず、44年の暮には、徳島書芸院選抜女流書作展（第3回県芸術祭参加）が開かれ、45年には、新春早々、第4回徳島日展書作家展が開かれたが、同展出品者の中に、44、45の両年にわたって、日展入選者を見ないのは淋しい限りである。

3月には、徳島書芸院が第8回学生書道展を、5月には同院が第17回展を、7月には、書人会が第9回展、9月には、県書道協会が第15回展、その他女性ペン字展など、恒例の書展が踵を接して開催された。

その他、45年度初めての催しとして、6月に眉峰書道グループ展、7月に鳥跡選抜100人展が開かれた外、9月には、美協書道部主催の、部員のみの色紙展を開いた。又同月、楠峰会書展が県芸術祭参加として第5回展を開いている。

【消 息】

グループ活動の盛況は、当然個人的活動につながってくるが、昨年秋から今年夏にかけての県書人の輝かしい足跡をたずねてみたい。

44年。大島溪石氏が第3回県芸術祭奨励賞を受賞

45年。2月 第6回創玄書道展に、荒井天鶴氏が一科審査員、久保幽香、成尾荘秀両氏が二科審査員として活躍。同展一科で芝原醒鶴氏が特選、岸潮風氏が秀作を受賞した外、二科賞、準二科賞受賞者7名を出している。

- 5月 第11回博美展で、荒井天鶴、後藤泰秀、田中双鶴の3氏が審査に当たり、芝原醒鶴氏が博美賞を受賞。

また、第6回全関西現代書展に、荒井天鶴、久保幽香両氏が一科審査員として活躍。

- 7月 第22回毎日書道展に、会員荒井天鶴、委嘱作家、田中柏翠、久保幽香、成尾荘秀、三木田栖鶴（本年委嘱作家に昇格）の各氏が出品。同展で岸潮風、大松碩城両氏が秀作賞を受賞。その他12名が入選。

写 真 部

部 会 長 西 条 征 二

年 間 展 望

第24回展の審査は棚橋紫水氏を招き行われた。その結果、酒井博司氏の特選（県展選抜展出品）ほか特選7点、準特選8点、入選108点がえられ、藤井梵、勝西雅夫両氏が第25回展の無鑑査作家となった。棚橋紫水氏の審査は激動する現代と、写真の流れをしっかりと見据えた個性ある作家としての厳しさと、出品作品に対して一点の妥協もない感じに、われわれは自らの作品に対する姿勢に深く反省し襟をたただす思いであった。応募者はベテラン、新人を含め約100名をかぞえたが、今後ますます増加さすべく努力をかさねたい。応募状況を地域的に観察してみると、ほぼ全県のといえるにしても徳島市を中心に、鳴門、鴨島、阿南の範囲に殆ど集中し、美馬、三好、海部という比較的遠隔地の出品が極めて僅かであり、今後の発展に一つの問題である。広く徳島県全域に作家を育てるために、すでに活躍している作家に、新人育成へのご協

力、ご努力をお願いしたい。

こういう趣旨を含め比較的新しい作家をもつクラブによるクラブ合同展が、今年第二回展として開催され、おどろくべきボリュームに発展し将来をたのしませた。また、徳島県写壇の発展に責任ある委員による第2回眉山展も成功し成果をあげつつある。会員の所属する愛光会、一光会、写楽会、日本リアリズム写真集団徳島支部、新光会等のクラブ展も活発に行われ、それぞれの特色を見せ、徳島県写真作家連盟も業績を重ねている。

作品についても今年は著るしい変化を見せ、個展として行われた木田英之氏の「沖縄報告」合同展の日光会「公害新町川」など、現代の問題を鋭くついた発表があり、本県の展覧会の特筆すべき変化と問題を提起した。今後わが国写真界の進む方向とあわせ見守っていききたい。

個人的な活躍としても全国的には藤井梵氏が、フォトアート誌の月例組写真の部に堂々日本一の栄冠を、吉成正一、笹田敏雄両氏が二科展に、西条征二、武内亨両氏がシュピーゲル展にとそれぞれ入賞し、本県トップグループのレベルの高さを示した。県内に於ては博美賞は原田敏雄氏に、宮西実氏が日堅連の年度賞を三年連続でかくとくした。

以上概略的に展望を行ったが、こんご更に会員諸兄とともに徳島写壇の向上を願い、努力していきたい。

会 員 名 簿

美術家協会の会員制度 (44年度から実施)

- ◎ 正会員になるためには、各部委員会の推薦による承認が必要です。
- ◎ 正会員は次のいずれかの部に属するものとします。
 - ① 日本画 ② 洋画 ③ 彫塑 ④ 美術工芸 ⑤ 書道 ⑥ 写真
- ◎ 正会員は、会費年額500円を納入し、2部以上にまたがる場合は1部につき250円を追加納入して下さい。
- ◎ 新しく正会員になる場合は、入会金として200円納入していただきます。
- ◎ 会費は原則として毎年総会までに納入して下さい。
会費未納のときは退会とみなします。
- ◎ 正会員は県美術展への出品、展覧会、講習会の案内等で、恩典を得ることが出来ます。

日 本 画

徳 島 市

井 上 栄 (春翠)
 林 白 揚
 浜 田 輝 (輝堂)
 佐々木 健 治
 吉 崎 進
 真 鍋 学 (春山)
 天 羽 密 二
 天 羽 成 芳 (春溪)
 佐 藤 敬 由
 清 水 敬 由
 清 水 丞 愰
 児 島 三千人
 齊 藤 誉
 庄 野 為三郎 (青卦)
 荻 野 行 夫 (青佳)
 松 崎 安 野 (白帆)
 新 居 登志子
 石 黒 妙 子
 岩 花 春 代
 土 方 喜美子
 中 谷 泰 子
 高 岡 敬 子
 国 行 房 子
 美 馬 清 子 (青苑)
 原 田 寛 子
 井 内 カヨ子
 木 谷 乙 と (双橋)
 生 田 幸 枝
 吉 坂 美智子
 春 名 生 子
 長 尾 弘 子
 田 村 雅 世

岡 田 敬 子
 後 藤 愈 (春潮)
 馬 居 寿美子
 浜 田 桂 子

鳴 門 市

釣 島 義 雄 (冬樹)
 村 上 重 雄 (凌雪)
 稲 木 義 格 (鳴雪)
 山 木 武 (蓮舟)
 三 原 雅 美
 三 原 忠 夫 (桂風)
 岩 崎 祐 二 (祐雪)
 高 田 美 苗 (瑞雪)
 田 淵 靖 夫 (冬湖)
 矢 野 昇 (秋溪)
 小 笠 謹 司
 浜 田 秀 雄
 富 増 治
 齊 雅 子
 村 沢 キミエ (紀園)
 矢 野 吉 子
 片 側 華 頂
 石 田 秀 憲

小 松 島 市

市 原 義 之
 貴 田 豊
 関 政 明

阿 南 市

橋 本 正 弘
 近 藤 高 能
 森 義 夫 (鳥苑)
 長 谷 寿

名 東 郡

森 本 貞 夫

板 野 郡

中 西 イ ソ (妍圭)

名 西 郡

土 井 洋 子

中 川 健

那 賀 郡

今 川 勝 重 (一水)

篠 原 正 義 (三叢)

海 部 郡

片 岡 良 治 (松風)

浜 半 蔵 (晶雲)

美 馬 郡

内 藤 和 江

福 本 和 行

三 好 郡

田 村 正

坂 本 武 子

洋

德 島 市

古 川 一 郎

富 村 裕

鶴 飼 重 輝

桜 木 秀 男

村 上 励 夫

湯 浅 安 夫

楠 瀬 等

板 東 弘 憲

工 藤 潤 二

齊 藤 橋 誉

高 橋 史 敬

今 田 丞 男

清 水 永 勉

松 永 安 弘

折 野 安 弘

橋 本 和 博

永 山 隆 二

齊 藤 敏 一

本 田 光

菅 井 務

高 橋 勇

太 田 幸 治

武 市 善 次 郎

富 本 彦 太 郎

小 倉 弘 勝

原 田 正 史

阿 部 正 敏 彦

今 田 本 穂

橋 本 穂

平 沢 い さ む

村 川 栄 一

山 蔭 涼

橋 本 宏 一

新 本 候 一

坂 本 三 千 一

堀 井 源 三

長 瀬 雅 俊

河 野 太 郎

佐 野 比 呂 志

後 藤 仁 一

柏 木 雅 美

北 島 溢

画

清光 水本 敬仁 由史
 鎌田 邦 宏明
 城福 野 政 晋
 幸馬 上 美
 騎野 野 榮
 井上 節
 天野 夫
 菅内 恒 次
 下原 章 広
 桑田 義 子
 黒田 優 多美子
 三木 文 雄
 秦水 麗 光
 清水 蔦 世
 宮み の る
 園木 香 代
 西美 佐 子
 藤啓 子
 田上 エツ コ
 賀木 道 子
 朝日 君 代
 服部 恵 美
 滝川 敦 子
 三浦 てる 子
 坂元 幸 子
 原田 寛 子
 戸出 英 輝
 吉永 房 子
 鈴江 豊 子
 福山 佳 津代
 安藤 笑 子
 笠井 幾 子
 露口 玲 子

木谷 東 旭 子
 川原 万 立 子
 楠本 姦 子
 吉岡 利 枝 子
 妹尾 映 子
 古出 純 代
 橋本 和 子
 小川 和 子
 広岡 育 子
 露口 敏 幸
 重木 博 次
 浅野 奈 弘
 池田 順 子

鳴門市

青山 盛 雄
 小橋 種 雄
 山県 宏 造
 明日 弘 郎
 日下 仁 夫
 戸田 浅 夫
 川端 正 雄
 湯本 禎 三
 高山 砂 哲
 山崎 文 子
 吉本 宣 子
 三沢 尚 子

小松島市

関原 政 明
 松崎 秀 清
 船田 道 男
 松田 道 代

阿南市

清水 芳 典

宇川幸一
小山敏和
青木繁太郎
霜田精奏
岡久薰
松田賢二
葉柳正
渡辺記世
柳沢俊美
仁木やよい
桑内誠

板野郡

前野英夫
加島保行(保我)
三木恵子
吉崎福恵
後藤登久
岩佐博久
越久高照
浜中健司
横田勝子

名西郡

前野亮治
松川寛
立石巖
富野徳博
清重友利
上田久つや
一宮つやこ

麻植郡

岡本征二
森依蹟
森本秀磨

松尾彰滋
川真田博子
酒卷太司
戸出英輝
天田弘之

那賀郡

島村英之
勝浦郡
中山智進
福野稔

阿波郡

松永勉
河本邦一
印藤博康
伊沢啓子
工藤朝右

美馬郡

下時治郎秀臣
天野幸
西村泰子
佐野邦子
海原敏文
田中輝義
長尾晴子
前田進一
上窺美智子
小笠美千代
北浦康了
近藤藤了

三好郡

久保二郎

石井一昭
川原康孝
山下浩平
平尾美智子

彫

徳島市

佐藤隆
平野仁太郎(仁)
鎌田富則

司征和

富永元
鎌田邦宏
浜口恵
宮本幸江

坂東由紀

長篠公子
新開とみ子

武田ユリ子
佐藤美恵

田村夫美子
柳原八重美
河崎良行
吉田陽一

鳴門市

細川直毅

小松島市

小野寺穰

阿南市

大津文昭

塑

松浦義博
田中義文
渡辺記世
霜田精奏

名西郡

門田守雄

榎本公明
板東弥生
一宮つや子

阿波郡

松永勉

那賀郡

公地ミチコ
井下俊作

麻植郡

谷村薫子
川真田博子

板野郡

岩佐博久

三好郡

竹岡利正

美術工芸

徳島市

森昌男
藤本真三(真入)
四宮久子
木下恭子
長篠公子

道 書

高橋 勇
新居 猛
堀井 幹之
高原 真理子
山上 馨
坂部 翠香
小浜 幸雄
平野 仁太郎
村上 正典

鳴門市

大西 光
田村 功
稻田 春雄
森 浩
和田 一男
松下 慶一
松下 雄介
生田 悦子
高木 朱実
矢野 款一

小松島市

岡田 源吉

阿南市

東雲 久武(寿)

名西郡

釜床 誠一

板野郡

加納 正則

阿波郡

井後 宏

海部郡

大沢 与美

徳島市

荒井 真十生(天鶴)
赤枝 日出雄(東峰)
成尾 麻雄(莊秀)
芝原 昭男(醒鶴)
岸 司(潮風)
小田 亮一(創風)
野村 正勝(鳴洋)
安原 久雄(香象)
佐藤 修一(案舟)
米沢 新二
齊藤 実
南 孝雄
中西 一昭
大松 茂昭(碩城)
上野 豊吉
高岡 清
武岡 勝人(象外)
石田 忠士(仙岳)
後藤 鹿三(泰秀)
富永 三喜男(眉峰)
田村 実(昇鶴)
安村 匡生(尚山)
海原 進(三鶴)
原田 新一(玉泉)
富峯 始(高石)
柳谷 繁夫(雄月)
中村 雅治(雅堂)
坂東 実(知草)
播磨 主基男(南枝)
西岡 春明(楚峰)

杣友豊市(耶木)
 上田守雄(溪水)
 佐藤真治郎(真堂)
 松本孝(祐石)
 安土頼一(竹堂)
 曾川由明
 吉田益義(秀鶴)
 長江義晴(清幽)
 渡辺政信(草石)
 須川重利(映峰)
 大塚栄(青丘)
 横田岩夫(素林)
 讚岐敏春(峰流)
 藤若辰義(美風)
 椎野博(春翠)
 松本吉孝(深翠)
 笹尾忠夫(芳石)
 田岡清夫(倚山)
 溝田昌市(砂風)
 丸浦信貞(生鷺)
 椎野好広(南翠)
 河端巧(聴雨)
 大柴繁夫(竹南)
 佐藤真治郎(真堂)
 清水猛(桂月)
 齐藤芳邨
 高瀬香峯
 糸田川徳廻
 仁木庵
 前川峰俊(古舟)
 田中正一(柏翠)
 仲三千人
 田中繁夫(双鶴)
 西岡幹朗(聖峰)

宮井和衛(青雨)
 西原三登利
 美馬幾美賀
 松本志津子(清香)
 椎野孝子(多佳)
 佐藤真知子
 中瀬久栄
 米田朋子(草舟)
 永田佳子
 明石久視子
 板東時枝
 八木幸子
 佐々木為子
 若木恭子
 中山叔子
 木下里子
 西岡光子
 相原志保(朴草)
 中口操
 坂口貴美子
 西谷志都子(澄水)
 松岡由紀子
 松崎安野
 高瀬香峰
 板東容子
 桜木成子
 山田隆子
 佐伯利子
 田中久恵子
 伊東重子
 近藤恭子
 中村節子(桂風)
 小野木美智子
 山口喜久
 原田恵美子(霽月)

中尾勝子
 波辺峰子(翠邑)
 清水豊子
 石田カツ子(青玉)
 八木祥子
 山川弥栄子(秀芳)
 赤枝実子(幽葩)
 上杉峯子
 玉城佳代子
 藤田良子(永仙)
 森本旺乃
 青木美代子
 河野芙美子
 高木はるの(菜月)
 森郁子(靖葩)
 円藤ツル子
 高山宏子
 秦野佳代子
 本庄冬子
 船越千賀代(仙華)
 森のぶ子
 長尾紀代美
 長尾公美子
 檜原松枝(香柏)
 成尾信子
 作本鈴子
 森野久子(靖仙)
 佐野泰子(天靖)
 久米安弥(聴香)
 河野富子(富仙)
 喜多村百(成蹊)
 永松照美(春苑)
 粟田博子(白蓉)
 久保幽香
 住友勝栄
 河原ナヲエ(紫峰)

安東タカ代(秀流)
 宮崎三和子(美和)
 山本三生子
 田中美智子(翠香)
 瀬川順子
 松田友栄
 中筋千代子
 中筋滋子
 中筋良江
 金野智賀子
 松本多恵子
 岩城紘子(美芳)
 庄野愛子
 石田仙岳
 杉村貴久枝
 谷カズ子
 臣永幸子
 安松初枝(美芳)

鳴門市

藤倉睦男
 加島俊彦
 寺田好(幽仙)
 松崎泰寿子
 坂根幸子
 出口幸七(佳堂)
 矢野実(海峯)
 近藤幸(静苑)
 富久和代
 桑田秀子
 磐崎恭子(永醒)
 中谷史子
 田中昭男(春鳳)
 吉田清一郎(竹舟)

泉 喜 策
田 中 芳 子
森 礼 子
尾 上 佳 代
浜 谷 幸 江
堀 江 幸 夫

小松島市

青 柳 道 男 (阜陽)
須 崎 喜代美
播 磨 幸 一
長 原 功 (阜鶴)
角 谷 文 子
斎 藤 定 (南翠)
西 野 と し
辻 恭 子
加 藤 美津子
服 部 文 昭
西 窪 良 文
井 中 容 子
勝 瀬 文 雄 (景流)
海 野 芳 子 (景泉)
船 崎 和 子

阿南市

高 原 正 晴 (清泉)
西 敏 晴 (南龍)
宝 田 卓 重 (卓斎)
小 西 正 雄 (竹風)
久 積 晃 (晃陽)
片 山 和 恵 (恵園)
大 下 富 江 (江波)
瀬 藤 豊 子
土 居 澄 江
長 谷 矢 寿 子 (美峯)
岡 久 美 樹 (海南)
中 山 美 恵 (恵女)

佐 竹 朝 美 (玉園)
奥 田 文 子
森 正 信 (翠峰)
高 島 千代子
乾 昌 彦 (南堂)
枝 川 照 子 (綾香)
金 谷 マスミ
叶 岡 真 琴

名西郡

中 西 護 (鬼山)
中 山 馨 (揚風)
平 田 忠 幸 (南仙)
増 原 清 (清虚)
日 野 弘 子
日 野 正 子
元 木 悠 記 子
久 米 智 子
久 米 郁 子 (青鶴)

板野郡

川 崎 稔 夫
矢 野 カヨ子
飯 島 茉莉子 (如水)
三 木 田 文 夫 (栖鶴)
木 南 道 子
吉 田 敏 明 (芳園)
春 藤 孝 雄 (閑陽)
金 子 定 一 (柴瀨)
菱 崎 信 義 (華瀨)
河 野 道 代
中 山 忠 夫 (青葉)
新 居 邦 夫 (藍水)
川 城 輝 昭 (峯碩)
銚 久 元 (清風)

阿部 友一 (天柱)
稲井 仁宝恵 (美穂)
大島 清子 (溪石)

日下 カズ子 (溪翠)
片山 敏江

馬淵 素舟
佐々木 亀三郎 (翠峰)

麻植郡

武市 瑛子
武市 絃生 (鳴雲)
大石 加代子
後藤田 恒男 (桂翠)
佐藤 茂美
佐藤 正江 (宗香)
市原 茂利
池上 和子
黒崎 康子
岡島 順子
西田 雅一
木村 佐代子
鈴木 正友 (翠雲)
篠原 保一 (緑葉)
石原 紀久江 (東籬)
岡田 厚子
新居 憲生 (藍州)
後藤田 新一 (香石)
山口 鑄石
新居 成子

海部郡

竹内 兵二 (才石)
湊 弘道 (岳泉)
久岡 春代
斎藤 八重子 (古梅)
森岡 禎子 (禎幽)

東甫 憲 (白亭)
野村 米子
香川 登 (青超)

戸摩 純子

那賀郡

島田 秀子 (小園)
岩城 美沙子
大平 武市 (光洋)
三間 好子 (好鶯)
橋本 孝之 (孝雲)
川上 進一 (虹泉)
下内 憲 (白峯)
杉本 千枝子
松原 よし子

勝浦郡

和泉 旭 (旭峯)
南 勝雄 (溪石)
前川 伴夫 (湖水)

阿波郡

近藤 莊平 (莊石)
近藤 宣太郎 (晴雲)
松本 速子 (花溪)
福井 民代

美馬郡

楮本 寿 (屏海)
片山 敏淑 (双梧)
秋山 喜久子
松永 盛雄 (遊仁)
山本 芳夫 (鳴水)
長江 達造 (頌石)
大塚 俊美 (美溪)

三好郡

横関 明(柏翠)
涇口 理(素水)

写 真

徳島市

渡平岡酒金中水古
仁高川小吉中
柿山関多留久熊新本櫛
住松吉西
辺山本井山川間井
木野添林井川
原泉口見米川見庄測
友田成野
実美五司勝四郎生吉
富弘友文定
有尚敏正泰萬金
幸正弘
雄治清実夫典
一郎務男雄仁幸夫魏
夫功純明

服部信彦
批杷谷直一
勝西山雅良男
中岸山良寛一
大横西山英雅正俊
齐藤本進一郎
岡本田敏雄
原安長剛光
井上田栄一
吉田田和幸
山田藤英介
近増田清次
松前京子
塀本信之生
小西信紀
山瀬原弘
原田正
篠原内正
武吉浅熊佐松後床福齐
深真
田成田川川田田波島藤
正章泰洋
正義
勝元亨一能仁一功弘衛仁行
明雄

前田忠利
 藤本正明
 庄野有
 竹口省
 稲塚有三
 春日政
 土居正
 武知実
 可原敏
 長谷川
 藤崎高
 宮城純
 木下唯
 並川雄

鳴門市

武田明
 納田康
 三原繁
 小山山
 川本勝
 西上政
 湯本た
 宮木征
 長谷哲
 木田昌
 上野豊
 齊藤正
 生田秀
 男

小松島市

久米典夫
 諏訪勝江
 山田勝二

堀本芳朗
 武田英昭
 宮田克彦
 納紫津子
 阿部昭次

阿南市

大津弘
 藤田淑雄
 多喜田弘
 茶園義男
 大田田修
 望月常夫
 米田房雄
 小川英男
 田中敏彦
 佐武三
 田田敏
 三雄
 松浦考
 林俊夫
 勝浦義
 田村泰
 久米和
 魁生理

名西郡

新井和博
 広田玲子
 平岡康治
 塚本富夫
 近藤康之
 津毛福雄
 後藤象二郎
 森岡昭
 近久茂信
 中西定雄

佐々木 教 一
楠 武

那 賀 郡

松 本 公
大 栗 茂 一
庄 野 信 彦
島 村 泰 邦
岩 角 芳 晴
森 真 佐 子
石 橋 資 史
中 都 郁 夫
浅 川 理

板 野 郡

橋 本 隆 雄
多 田 徳 光
樽 家 円 一

阿 波 郡

近 藤 正 多 嘉
割 石 路 子

麻 植 郡

直 江 千 津

藤 井 梵
川 上 健 司
宮 西 実
城 尾 静 子
浜 野 健 一 郎
松 島 義 治
松 島 啓 二
三 村 和 生
幸 田 青 滋
中 村 哲 義
青 山 義 雄

名 東 郡

岡 本 弘
岡 田 文 夫

美 馬 郡

佐 久 正 信
北 室 正 一

三 好 郡

鈴 木 秀 次

写真部賛助会員

ス タ ー 写 真
北 村 商 会
ふ く や 光 画 荘
き く や 商 会
富 士 カ メ ラ
中 山 カ メ ラ
さ く ら や
フジカラー徳島現像所
湯 本 カ ラ ー
マ エ ダ カ メ ラ

小松島市中町3丁目
徳島市東大工町
" 紙屋町1丁目
" 両国橋1丁目10の2
" 富田橋3丁目
" 南内町2丁目
" 東船場町1丁目19
" 通町3丁目29
鳴門市撫養町本通
" 撫養町本通

徳島県美術家協会役員一覧

(昭年24年度～昭和43年度)

☆昭和24・25・26・27年度

会 長	原 菊太郎
副 会 長	大 西 角 平
"	鬼 塚 信 之
常任委員	高 岡 徳 平 (日本画)
"	田 中 良 平 (")
"	山 本 柳 雪 (")
"	河 野 太 郎 (洋 画)
"	平 沢 勇 (")
"	桜 木 秀 男 (")
"	板 東 俊 一 (")
"	福 永 実 人 (")
"	富 村 裕 (")
"	長 井 公 雄 (")
"	佐 野 廣 (")
"	土 居 昭 文 (")
"	大 田 三 郎 (彫 塑)
"	高 橋 武 (美術工芸)
"	内 藤 祥 資 (写 真)
"	吉 成 一 光 (")
"	福 島 正 仁 (")
"	荒 井 天 鶴 (書 道)

常任委員	河 野 太 郎 (洋 画)
"	桜 木 秀 男 (")
"	井 上 朋 弥 (")
"	佐々木 清 (")
"	平 沢 勇 (")
"	佐 野 比呂志 (")
"	福 永 実 (")
"	井 上 速 男 (")
"	村 上 励 (")
"	今 日 史 男 (")
"	松 井 秀 (")
"	板 東 文 夫 (彫 塑)
"	高 橋 武 (美術工芸)
"	吉 成 一 光 (写 真)
"	福 島 正 仁 (")
"	井 関 武 (")
"	浅 田 章 能 (")
"	柳 川 一 男 (")
"	西 条 征 二 (")
"	荒 井 天 鶴 (書 道)
"	田 中 双 鶴 (")

☆昭和31・32年度

☆昭和28・29・30年度

会 長	原 菊太郎 (30年度は蒲池正夫)
副 会 長	田 中 良 平
"	鬼 塚 信 之
常任委員	高 岡 何 有 (日本画)
"	庄 野 青 訃 (")
"	宮 井 小 雨 (")
"	利 光 皓 村 (")
"	村 上 凌 雪 (")

会 長	桜 木 秀 男
副 会 長	田 中 良 平
"	後 藤 泰 秀
常任委員	宮 井 小 雨 (日本画)
"	後 藤 春 潮 (")
"	河 野 太 郎 (洋 画)
"	松 井 秀 (")
"	板 東 文 夫 (彫 塑)
"	庄 野 数 馬 (")
"	高 橋 武 (工 芸)

常任委員 堀井幹久(工芸)
 " 福島正仁(写真)
 " 浅田章能(")
 " 荒井天鶴(書道)
 " 富永眉峰(")

☆昭和33・34・35年度

会 長 桜木秀男
 副会長 赤枝日出雄
 " 庄野数馬
 部会長 宮井小雨(日本画)
 " 河野太郎(洋画)
 " 板東文失(彫塑)
 " 釜床誠一(美術工芸)
 " 後藤泰秀(書道)
 " 福島正仁(写真)

(注) 33年度から理事制をとり、各部から
 3~4名選出した。氏名は毎年年報
 を発行したので省略する。

☆昭和36・37年度

会 長 桜木秀男
 副会長 庄野数馬
 " 赤枝日出雄
 部会長 宮井小雨(日本画)
 " 河野太郎(洋画)
 " 北橋隆(彫塑)
 " 釜床誠一(美術工芸)
 " 後藤泰秀(書道)
 " 福島正仁(写真)

☆昭和38・39年度

会 長 桜木秀男

副会長 庄野数馬
 " 赤枝日出雄
 部会長 宮井小雨(日本画)
 " 河野太郎(洋画)
 " 河崎良行(彫塑)
 " 釜床誠一(美術工芸)
 " 後藤泰秀(書道)
 " 福島正仁(写真)

☆昭和40・41年度

会 長 桜木秀男
 副会長 庄野数馬
 " 富永眉峰
 部会長 宮井小雨(日本画)
 " 河野太郎(洋画)
 " 河崎良行(彫塑)
 " 釜床誠一(美術工芸)
 " 後藤泰秀(書道)
 " 福島正仁(写真)

☆昭和42・43年度

会 長 桜木秀男
 副会長 庄野数馬
 " 富永眉峰
 部会長 宮井小雨(日本画)
 " 河野太郎(洋画)
 " 佐藤隆(彫塑)
 " 釜床誠一(工芸)
 " 後藤泰秀(書道)
 " 福島正仁(写真)

第25回徳島県美術展(県展)公募規定

部門 事項	日 本 画	洋 画	彫 塑	美術工芸	書 道	写 真
搬入日	11月2日・3日	11月6日・7日	11月7日・8日	11月2日・3日	10月24日	11月1日
搬入先	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館
審査日	11月3日	11月8日	11月8日	11月3日	10月25日	11月1日
審査員	奥村厚一	斉藤真成	原 武典	藤本能道	荒井天鶴・後藤泰秀 田中双鶴・田中栢翠 富永眉峰	棚橋紫水
出品料	美協会員 1点400円 2点からは1点ますごとに300円 非会員 1点1,100円 2点からは1点ますごとに500円					
出品制限	<ul style="list-style-type: none"> 未公開作品に限る 点数は制限なし 小中学生は出品できない 20号以上、100号までで、横幅2m以内 額ぶち付きまたは枠張り(ガラス不可) 	同 左	同 左	同 左	同 左	同 左
入 賞	特選 4点 標準特選 4点 入選 若干点	特選 5点 標準特選 10点 入選 若干点	特選 3点 標準特選 4点 入選 若干点	特選 3点 標準特選 5点 入選 若干点	特選 7点 標準特選 8点 入選 若干点	特選 8点 標準特選 8点 入選 若干点
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 落選作品は審査後(7日間) 入選作品は展覧会終了後(10日間)に搬出すること 					

第25回県展・招待・無鑑査・特別出品者

日 本 画

〔招 待〕

後藤春潮 徳島市
村上凌雪 鳴門市
長尾弘子 徳島市
荻野行夫 " "
近藤高能 阿南市
橋本正弘 "

〔特別出品〕

浜晶雲 海部郡
庄野青舛 徳島市

洋 画

〔招 待〕

佐野比呂志 徳島市
平沢いさむ " "
永山隆二 "

〔無鑑査〕

清水丞典 徳島市

〔特別出品〕

桜木秀男 徳島市
河野太郎 "

彫 塑

〔招 待〕

河崎良行 徳島市
佐藤隆 " "
大津文昭 阿南市
浜口恵 徳島市

〔特別出品〕

坂東文夫 徳島市

美 術 工 芸

〔招 待〕

釜床誠一 名西郡
新居猛 徳島市
堀井幹之 " "
高橋勇 " "

〔無鑑査〕

森昌男 徳島市

〔特別出品〕

坂部翠香 徳島市
柏木白雲齊 " "
大沢与美 海部郡

書 道

〔審 査 員〕

荒井天鶴 徳島市
後藤泰秀 " "
田中双鶴 " "
田中栢翠 " "
富永眉峰 " "

〔招 待〕

西岡楚峰 徳島市
久保幽香 " "
仲三千人 " "
新居藍州 麻植郡
宮井青雨 徳島市
長原阜鶴 小松島
高原清泉 阿南市
西原南龍 " "
讚岐峰流 徳島市

〔無鑑査〕

芝原醒鶴 徳島市

原田霄月 ”

〔特別出品〕

赤枝東峰 徳島市

写 真

〔招待〕

福島正仁 徳島市

増田清次 ”

〔無鑑査〕

藤井梵 麻植郡

勝西雅夫 徳島市

〔特別出品〕

吉成正一 徳島市

浅田章能 ”

深井為明 ”

湯本博 鳴門

招待・無鑑査・特別出品規定

☆ 次のものを招待とする。

- 1 無鑑査出品を3回以上得たもの。

☆ 次のものを無鑑査とする。

- 1 特選連続3回を得たもの。
- 2 第1回より年回を問わず特選5回を得たもの。(但し、年回の間が5年を経てその間特選または準特選の受賞なきときは失格)
準特選2回をもって特選と同値とする。
- 3 前回展の無鑑査出品者にして特選を得たもの。

☆ 次のものを特別出品とする。

理事会で認めた会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員補助。

☆ 招待及び無鑑査出品者が応募作品の場合はその特典を失格する。

☆ 17回展までの奨励賞を準特選と改称する。

あ と が き

美術の秋がおとずれ、45年度美術年報をおとどけいたします。

表紙は日本画部の後藤春潮先生にいただきました。また、各部会長さんにもご執筆をいただき、厚くお礼を申し上げます。

県美術展も第25回を迎え、第4回県芸術祭の主催公演となり、名実ともに、県美術界の総力を結集することになりました。

展示場も郷土会文化館の完成によって、第26回展からは斬新なものになると期待しております。

どうぞ会員の皆様には、ますますご壮健にて創作活動にはげまれるとともに、協会の発展のためにご意見、ご希望をおよせ下さいませようお願いします。

昭和45年11月

県美術家協会事務局

昭和45年11月20日 印刷

昭和45年11月25日 発行

装幀者 後 藤 春 潮

編集者 清水博・筆田浩資

発行人 桜 木 秀 男

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳島県美術家協会
徳島市城ノ内1
県立図書館内 TEL52-3151